

## 親子三馬鹿（江戸小咄から）

落語の方には、よくおろかなやつが出てまいります。いわゆる、馬鹿でございますが、馬鹿にもいろいろ種類がありますよう、四十八馬鹿、あるいは百馬鹿、色気のある馬鹿かと思うと、食い気のがったり、さまざまございまして、中には、兄弟で馬鹿、親子で馬鹿なんてこともありますな。

団 あんちゃん、あんちゃん、一年ってのは、十三か月だな。

兎 馬鹿だな、そんな事を言ってるから、近所の人が、みんなお前の事を馬鹿だ馬鹿だつて言うだ、一年は十三か月じゃねえ、十四か月だ。

団 そんな事ないよ、あたい、今聞いてきたんだから。じゃ、数えてみようか？一月、二月、三月、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、ううん、十一月、十二月、お正月、ほらみろ、やっぱり十三か月じゃねえか。

兎 馬鹿、お盆が抜けてら。

なんてんで、てめえの方がよっぽど抜けておりまして・・・

団 あんちゃん、来年のお正月とお盆は、どっちが先に来るの？

兎 そんな事は、来年にならなきゃ分からないじゃないか。

ってえと、それを聞いていた親父が、

団 うん、さすがに兄貴だけあって、考えがしっかりしている。

なんて、変な親子があったもんで・・・

こんな家族になりますと、弟が、夜、道端で物干し竿を振り回しておりますと一騒動がおきたりしますな。

兎 おい、お前なんやってんだい。

団 あ、あんちゃんかい、あのね、今お空でピカピカ光っているお星様がきれいだから、この物干し竿で、取ろうと思って・・・

兎 馬鹿！こんなところで、物干し竿振り回したって、星なんて取れるもんか。星はもうとうんと高いところにあるんだぞ。

団 そうなの。

兎 当たり前だ、屋根へ上がり。

なんてんで、二人で屋根へ上がりまして、物干し竿を振り回しておりますと、それを親父が見つけまして・・・

団 おおい、おまえたち、何をやっているんだ。

- 児 あ、おとつあんかい、いまね、弟が、お空で光ってるお星様取ってくれって言うから、この物干し竿で取ろうと思って・・・
- 父 馬鹿。そんな所で、物干し竿振り回したって、星なんざ取れやしねえ。降りてこい、降りてこい。
- 児 おとつあん、なんでとれないんだい？
- 父 いいか、よくおぼえとけ、あれは、雨の降る穴だ。